

「いつくるかわからない災害に備えて」 「連合鳥取防災学習会」で “サバめしサバイバル・メシタキ”に挑戦！



イサ！という時に備えて空缶と牛乳パックでのご飯炊きにチャレンジ！

はじめに、木岡繁男全労済鳥取県本部専務理事より「防災・減災の取り組み」について講義をいただき、いつおこるか分からない地震・風水害・ゲリラ豪雨等「まさか」の事態に備えた学習を行いました。

講義では、熊本県阿蘇山の噴火現象や発生メカニズム、マグニチュードと震度の違い、建物の揺れの大きさ、被害の程度について、手作りの道具を使った実験を交え説明いただきました。また、卵殻を粉々に散乱させ、ガラ素足で歩く危険性について、参加者をモデルのように説明いただき、そのような時には応急的な措置として「新聞紙で作ったスリッパで歩く」とよいといった疑似体験も行いました。

その後、「こんなとき、どうする？」あなたは生き残れるか」と銘打った防災意識クイズを行いました。木岡専務理事は、「自然災害に備えることは、一瞬の判断・行動が命を守ることに繋がる」と、「日頃から自然災害の恐ろしさ

8月23日(土)、中部教育会館(倉吉市)において、全労済鳥取県本部のご協力により「防災学習会」を実施しました。8月20日(水)未明に発生した「広島土砂災害」の被災状況が明らかになっていない中、開催した連合鳥取防災学習会には38人の参加があり、準備・協力いただいた全労済鳥取県本部の様々な実験道具を使い、自分自身の身を守り、被害を最小限に留めるための知恵を学びました。

を学び、災害時に被害を最小限に留める行動を身に付けることが大切と訴えられました。続いて、駐車場に出で、災害の時役に立つ「サバめし」づくりを挑戦しました。

災害などでライフラインが止まったとき、空缶(アルミ缶)を釜やコンロにみだて、牛乳パックを燃料として、簡単に屋外でご飯を炊く方法です。参加者は、コンロの火を絶やさず、燃料の牛乳パックを1cm幅にちぎったものをくべ、20分ほどでご飯が炊き上がり、各自、試食しながら炊きたご飯でしたが、美味しかったです。

最後に田中穂連合鳥取県本部専務局長が、「この「防災学習会」を『防災・減災』を見直すきっかけとし、災害時にはそれぞれがす

ー 全労済鳥取県本部 防災イベントー

みんなのぼうさいフェスティバル in とりぎん文化会館

◇日時／2014年9月6日(土) 11時～16時

◇場所／とりぎん文化会館

◇内容①「釜石の奇跡」を導いた片田敏孝氏講演会

- ・場所／小ホール ・時間／開演14時00分予定
- ・演題／「学校・家庭・地域で取り組む命を守る絆の防災」

②ロケットくれよんコンサート

- ・場所／小ホール ・時間／開演11時00分予定

③ぼうさいカフェ(参加・体験型ブース)

④屋外体験コーナー(1F入口前(屋外特設会場)) ※当日の天候により、内容が変更となる場合があります。

- ▶地震体験車コーナー ▶煙体験ハウスコーナー ▶サバめしコーナー

⑤室内展示・体験コーナー<1F展示室>

- ▶災害写真パネル展示コーナー ▶防災関連パネル展示コーナー
- ▶防災グッズ展示コーナー ▶キッズぼうさい迷路コーナー
- ▶ストローハウスコーナー ▶ガラス散乱体験(卵殻)コーナー

連合鳥取後援

ばやく安全なところ避難し、生き残ることが大切である」とまとめました。



地震の時はガレキがいっぱい。取り急ぎ新聞紙のスリッパで大事な足を守るの！

■平和特集■ — 子どもたちに核兵器も戦争もない未来を — 県内3カ所でピースウォークを実施

「子どもたちに核兵器も戦争もない未来を」をスローガンとした「2014連合鳥取ピースウォーク」は8月2日(土)、8日(金)、9日(土)、県内3会場に約480人が参加し開催されました。各会場とも、各地協の創意工夫のもと、講演、映画鑑賞等を行うとともに「集会アピール」を採択し、あらためて平和への誓いを強めました。

◇県(西部)地協ピースウォーク(8月9日(土))／ふれあいの里:200人◇

◇主催者あいさつ要旨(田中 穂連合鳥取事務局長)

戦後70年を迎えようとするなかで、近年、その基盤である平和憲法が危険な方向へと舵を切りつつある。連合方針である『働くことを軸とする安心社会の実現』は、平和でルール・秩序ある社会の構築が前提であるが、7月1日、安倍政権が閣議決定した集団的自衛権行使の容認は、再び子どもたちを戦禍に導く危険性を秘めている。連合鳥取は、平和社会の存続と安心して働き暮らせる福祉社会の実現に一層の活動展開を図っていく。



◇基調講演「緊迫する憲法問題とわが国の行方」講師／安田壽朗弁護士

今、国民が置かれている極めて憂慮すべき社会環境について、過去の紛争や戦争の歴史を振り返ったうえで、閣議決定のめざす意味、解釈改憲の矛盾、集団的自衛権の目的、弁護士会の立場などを学習しました。



講師／安田弁護士

【要旨】 来年の国会には、集団的自衛権行使を容認する13法案が整いつつある。みなさんの子ども、孫が成長する段階では、何らかの形で(国際紛争等に)関与する社会が強く危惧される。

【質問】このような状況に私たちが何をすべきだとお考えですか？

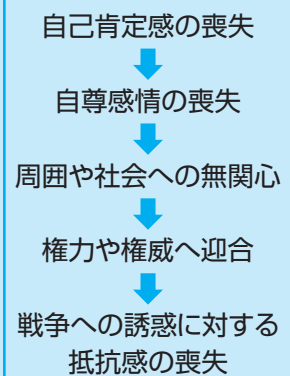
【回答】①解釈改憲の本質と行き着く先を周りに伝えること

②あらゆる場で声をあげること

③「戦争参加か犠牲」という当事者性をもつ子どもや若者を育てること

④そのためには、子どもや若者の自己肯定感*を育てることが大切。

※自己肯定感がなくなると…



《参加者からの声・感想(抜粋)》

- ・マスメディアを通じて一定の危機感を感じているが、このように、時系列な動向や詳細を学習すると一層危機感が増した。
- ・子どもたちを戦場に送らないためには、現役社会の役割と責任が大きいことを自覚すべき。
- ・平和運動への社会的なうねりを形成することが急務だと感じた。…等など



◇東部地協ピースウォーク(8月2日(土))／さざんか会館:150人◇

2012年9月29日、「オスプレイの普天間基地配備」に対し起こった「普天間基地のゲート完全封鎖」を知っていますか？オスプレイの着陸帯が自宅のそばに建設されると聞いて座り込んで反対した沖縄県東村・高江の住民たちが「通行妨害」で国から訴えられた前代未聞の裁判をご存知ですか？

全国のメディアで放送されることのなかった沖縄の怒りをドキュメント映画にした「標的の村」を今年のピースウォークで上映しました。沖縄で起きていることすべてが報道されている訳ではなく、「国民のための国」なのか「国のための国民」なのか考えさせられる映画でした。「戦争そのもの」でなく、今の日本の姿から「平和」について学ぶことができました。

《参加者からの声・感想(抜粋)》

- ・憲法第9条云々より、沖縄県民は基本的人権を妨げられ、個人として尊重されているのだろうか。フクシマ・東北のことも含め、他人事とせず、国全体で考えるべき。
- ・国がオスプレイ配備を強制的に進めているという事実を広く知ってもらい、おかしいと思うことは声をあげていくべき。
- ・報道規制などもあり、表にあまり出てこない「現場の実態」を知る良い機会となった。
- ・内容はよかったが、子どもには難しい。
- ・今年も参加者が少なかった。行進はもっと人が多い方がよいと感じた。



◆中部地協ピースウォーク〈8月8日(金)／倉吉体育文化会館:105人〉

今年のピースウォークは、身近に感じられる平和運動を掘り起こそうと、地元で平和運動に取り組んでおられる池原正雄さん(被爆アオギリを守る会)を講師に迎え、「足元から掘り起こす平和運動」という演題で1時間にわたり講演を行っていただきました。講演終了後には、講演の中で触れられた『被爆アオギリ3世』の苗を池原さんよりいただきました。今後、中部地協事務局でこの苗を大切に育て、「平和」や「原爆を風化させない取り組み」の柱としていきたいと思っています。

〈台風11号のため「平和行進」は中止しました〉



連合主催の沖縄・広島・長崎集会にも参加

◆平和行動in沖縄〈6月23日(月)～24日(火)／那覇市他:6人〉

- ・2014平和オキナワ集会
- ・ピース・フィールドワーク「米軍基地の視察」
- ・平和デモ行進

◆平和行動in広島〈8月5日(火)～6日(水)／広島市:15人〉

- ・ピースウォーク(平和公園内・各モニュメント)
- ・連合2014平和ヒロシマ集会 ～核兵器廃絶と世界の恒久平和の実現を求めて～

◆平和行動in長崎〈8月8日(金)～9日(土)／長崎市:6人〉

- ・連合2014平和ナガサキ集会 ～核兵器廃絶と世界の恒久平和の実現を求めて～

平和行動in沖縄



平和行動in広島



平和行動in長崎



中部地協レポート／ 部落解放研究第42回倉吉市集会実行委員会で「労働者の人権」について報告

部落解放研究第42回倉吉市集会は8月24日(日)、倉吉未来中心を中心とした会場に約800人の参加者が集まる中で開催されました。

午後からの分科会では、今年初めて「働く人の人権」をテーマにした分科会が創設され、「安心して働き続けられる社会にするために」というサブテーマで40人の参加者と討論を重ねました。

最初の分科会発表(問題提起)では、「労働相談事例から学ぶこと」と「家庭生活と仕事の両立」の2本の柱で討議を行い、最初の柱について、田中 穂連合鳥取事務局長が実際に連合鳥取に寄せられた相談事例を紹介するとともに、〈連合労働相談フリーダイヤル0120-154-052〉をPRしました。

①事例1:ブラック企業/会社を辞めることができない ②事例2:セクハラ ③事例3:母性保護(マタハラ) ④事例4:仕事に行くのが怖い(パワハラ)の4つの事例をもとに感じたことをグループ討議し、それを発表し回答する形で数多くの発表がありました。グループ討議は活発で、潜在的に各職場で悩みや課題が山積していることが推察されました。



ご存知ですか? 「連合鳥取第3次男女平等参画推進計画」⑦

◆3つの目標の達成度をはかるための「数値目標」

2015年までに **50%** 2017年までに **70%** 2020年までに **100%**

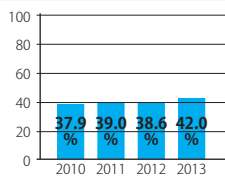
運動方針に
男女平等参画推進と
3つの目標の取り組み
を明記している組織

働く女性、働き続けたい女性は増えているよね。
連合鳥取が実施した過去4年間の「男女平等参画
実態調査」からみた現状を確認してみよう。
それと、本年度の調査を9月末メ切で実施中だよ。
ぜひ協力してね。



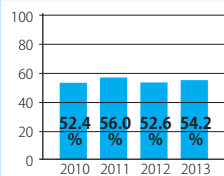
①女性組合員比率の推移

非正規の組合員化などにより、女性の組合員比率が上がってきています。今後、より多くの女性がともに働きやすい職場環境を整えていきたいと思います。



②運動方針に「男女平等参画」への取り組みを明記している産別の推移

年により回答の得られた産別数にバラツキがあり、微妙に数値に誤差がありますが、産別レベルでは「2015年までに50%達成」の目標はクリアしています。今後は「2020年までに100%達成」の目標に向けて更なる取り組みをお願いします。また、単組レベルでも「運動方針」を確認し、積極的な取り組みをお願いします。



2015年度政策・制度要求 鳥取県知事に手交

8月8日(金)、五十嵐美知義会長と田中 穂事務局長が鳥取県庁に出向き、平井伸治鳥取県知事に「2015年度政策・制度要求(27項目)」を手渡しました。

「働くことを軸とする安心社会」をめざし、今後、鳥取県の各部局担当者と協議を行っていきます。



平井県知事(左)と五十嵐会長

Information

※詳しくは、連合鳥取事務局へお問い合わせください。

青年委員会／列島クリーンキャンペーン

- ◇日時 2014年9月27日(土)～28日(日)
- ◇場所 ホテル大山しるがね
- ◇内容 大山登山(一木一石運動&大山ガイドの講話)レクリエーション
- ◇日程
 - ・9/27 受付開始 10時～
 - ・登山(出発:10時20分～ 下山:昼食後下山)
 - ・夕食懇親会(18時～)【宿泊】
 - ・9/28 朝食後解散
- ◇参加費 8,000円
- ◇その他 産別・直加盟組織を通じて参加案内をしています



鳥取高連連／第22回定期総会&全県学習会

- ◇日時 2014年9月30日(火)10時15分～
- ◇場所 国民宿舎 水明荘
- ◇内容
 - ・全県学習会 (講演)講師/退職者連合
 - ・定期総会 2014年度活動・会計決算・監査報告
 - ・2015年度運動方針・予算(案)・役員選出 他
 - ・昼食懇親会



中部地協／中部地協「クイズラリーで学ぶ労働法制」

- ◇日時 2014年10月4日(土)10時～
- ◇場所 中国労働金庫倉吉支店会議室他
- ◇内容
 - ・男女2人(独身者)ずつ4人を1組として20問のクイズを協力しながら解いていく
 - ・表彰式・懇親会も計画
- ◇その他 参加費無料、申込み順で定員になり次第、締め切りです

※詳しくは連合鳥取中部地協へお問い合わせください TEL0858-23-7205

“ザ・議員”

木村 和久 鳥取市議会議員

4年間みなさまにお支えいただき頑張ってきました。振り返り、混迷した鳥取市議会の中で、思い通りに働けたかといいますと「否」です。議員に求められる説明責任はできる限り果たしてまいりましたが、住民投票という民主主義の原点が、いとも容易に多数によって崩される姿に、大きな矛盾と憤りを感じました。

このような現状を見ても民主主義において、数の重要性を改めて実感いたしました。また今、自民党の絶対多数により、戦後築き上げてきた平和国家としての「日本の信頼」が失われようとしています。また安倍総理の願う戦前回帰への動きを止める事ができません。

まず民主党が「健全で強い野党」へ、早く再生・再起の途に着かなければなりません。まず第一歩として「地方から中央へ」の、大きな潮流を作らなければなりません。党が失った信頼をまず地方から取り戻す、「健全で強い野党」を、そして「2大政党制」の実現をめざしみなさまと連帯し、実現に向けて参画・行動してまいります。

今後ともご指導ご支援をよろしくお願いいたします。



視察先にて

棕田 昇一 鳥取市議会議員

今年の6月議会で、県教組提出の「義務教育費国庫負担制度2分の1復元」と「少人数学級の推進」を求める陳情が採択されました。4年目にして実現した懸案、労働組合との緊密な連携によるものでした。

昨年の6月議会では、鳥取市非常勤職員(嘱託職員)の育児休業制度導入への答弁を得ました。この度、組合協議の結果、育児休業だけでなく介護休暇等も実現の運びとなりました。制度の拡大に向け、労働組合の更なるご支援をお願いします。

遅ればせながら鳥取市議会でも議会改革が進んでいます。本会議のテレビ中継に続いて、議案に対する議員の賛否が公開されます。私が最も重要視していたものです。

あっという間の4年間でした。これからも誰かの不安や具体的な困りごとに目を向け続けたいと思っています。

どうぞ引き続きご支援ください。



2014東部地協
ピースウォークに参加

連合鳥取東部地協

盆の連休中に10歳になる甥っ子に会った。彼には生まれつきの障がいがある。他の子どもたちのように小学校に通うことができない。年数回会うたびに、それが我が家の楽しみ。それは、一つとなつていく。一歳年下の私の娘も、次に会うのはいつか。いつも大規模災害が各地で発生しているが、その被災地に暮らす障がい者の情報は少ない。障がいを感じ、もしそのようにならなうとが起これたら、私たち家族は、何ができるのだろうか。もちろん、他人事ではななく、彼らが日常生活を営めることは限られてくる。企業は自社の生き残りを常に考える。もちろん、正しい個人の責任である。その地域、その責任である。今年もナイスハート※の時期が近づいてきた。毎年スポーツを通じて、ハンディキャップをもった方々とふれあいを深め、お互いに「自立の心」と思いやりの心」を育むことを目的として開催されていく。天候に恵まれ、一日にあることを願う。(大)



※ナイスハート：スポーツを通じて、ハンディキャップをもった方々と自動車産業に従事する組合員がふれあいを深め、そのなかから「自立の心」と思いやりの心」を育むことを目的として毎年開催しています

てんぐつてんぐ



再生紙を使用しています